

23区で初となる東京2020オリンピック・ パラリンピック競技大会に向けた懇談会を開催

3日、杉並区における東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた懇談会が開催され、委員による活発な意見交換が行われました。委員は、学識経験者や区内団体から推薦を受けた方、大会に関心を持つ若い世代を含む一般公募者など31名で、その中にはオリパラの出場経験を持つ委員もメンバーになっています。

この懇談会は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、区内のスポーツ振興や地域の活性化につなげるとともに、将来にわたり大会の有益な遺産（レガシー）を残すことができるよう、区民と幅広く意見交換を行い、それぞれが主体となって、大会に向けた取組を進めていくことを目的として設置されています。

3日に開催された第一回懇談会では、「東京オリンピック・パラリンピックを利用して杉並区をどのようにしていきたいか」というテーマについて、意見交換が行われました。参加した委員からは、「杉並区を全世界へアピールすることにより、杉並が持つブランド力をアップさせていこう」や「リオの場合でも、パラリンピックの開催を知らない方が多い。東京での開催時は、杉並が率先してパラリンピックの存在をアピールしていくべき」などの意見がでました。



第1回の懇談会には、出席をしませんでしたが、委員の中には女子バドミントン・シングルスで、2000年シドニーと2004年アテネでオリンピックに出場した米倉加奈子さんや日本パラリアンズ協会理事で、2008年北京パラリンピック大会に、ゴールボールで出場した高田朋枝さんも委員に名を連ねています。2人は、いずれも区内在住で、スポーツ経験者ならではの立場から、オリンピックやパラリンピックを東京で行うことの意義や価値を伝えてもらうことを期待しています。

懇談会は、今年度内に4回程度開催の予定で、毎回テーマを決めてワークショップ形式で意見を集約していきます。出された意見の中から、実施可能な取組については、実施方法等の検討を行ったうえで事業化を進めていくこととしています。2020年の東京大会に向けた、このような懇談会の設置は23区初となるものです。

【問い合わせ先】

オリンピック・パラリンピック連携推進担当 : TEL : 3312-2111 内線 3771